

令和6年度 府中市校長会

I 活動方針・重点事項等

本校長会は、小学校22校の校長で構成されている。校長同士の連携はもとより、府中市教育委員会、PTA連合会、青少年対策地区委員会、地域関係団体等とは大変強い関係を築いている。今年度は市制70周年を迎え様々な取組が行われている。「ふるさと府中に誇りもち、グローバル社会で活躍する府中っ子を育てる」という府中市教育委員会の基本理念の下、校長会運営テーマを「府中の教育を推進する校長会」とし、一層充実した学校教育の推進を使命としている。また、「子供たちの安全と成長のために」の思いの下、22校の全校長が一致団結し、校長連絡会や日常のメール等で常に連絡を密にし、情報交換や意見交換を行いながら学校経営にあたっている。

II 活動・取組

1 研究・研修活動

都小人権教育Cブロックの研究協議会での発表を今年度11月に控え、『これからの学校教育と学校経営の在り方 ～人権教育の視点から～』を主題に、「第3次府中市学校教育プラン」の方針を受け止めた学校経営を築き上げ、各学校での経営実践を踏まえた研究活動を2年間、行っている。

昨年度は、研究主題に基づき、3つの分科会に分かれて研究活動を行ってきた。A分科会「共生社会を生きる児童の育成」、B分科会「学びなどを保障する不登校支援」、C分科会「子供の見方や捉え方を高める教員研修」の3つの視点から市立小学校の人権教育について、総括的にまとめている。

研究内容の概要としては、A分科会は、障害者理解教育の実践や、全校の児童に質問紙調査を実施し、人との違い（多様性）を受容し、自他のよさを認められる取組を推進する必要があることを明らかにした。B分科会では、令和5年年度から府中市立小中学校で不登校児童の対応として、設置されたサポートルームのよりよい活用方法について研究を深め、不登校の初期対応や教室復帰に有効であることを確認できた。C分科会では、児童虐待に焦点をあて児童虐待防止研修セット「児童虐待にかかわる5つの問い」の研修会を通して、関係機関との連携の重要性を理解するとともに教員の指導力の向上に資することができた。昨年度、市内小学校校長副校長の合同研究発表会で発表し、教育長、指導室長からのご指導をいただき、今年度の研究に生かしている。

今年度は、都小人権教育Cブロックの研究協議会を11月に控え、3分科会の研究をさらに深めるため、3分科会に分かれ、22校全校での実態調査や同一の児童虐待の研修会を行い府中市立小学校の人権教育について、総括的にまとめ発表し、皆様からご指導をお願いしたい。

2 地区教育委員会、小中PTA連合会等との連携

校長会として、地区教育委員会が主催する各種委員会・協議会等に参加し、地区教育委員会における課題の解決や施策の推進に積極的に提言している。また、校長役員会と教育委員会との打ち合わせ会を月1回設け、地区教育委員会との連携を深めているほか、毎年、予算要望を緻密に行い、よりよい教育活動の推進に取り組んでいる。

また、全校長が府中市PTA連合会の理事であり、年に数回ある研修会では助言者として参加している。その他にも、市教委主催や市後援団体主催の行事をはじめ、青少対各地区委員会、民生児童委員、各スポーツ団体等の諸団体との連携や、地域特有の行事等、学校の代表者であると同時に校長会の一員として連携し、責任ある役割を果たしている。